

サステナビリティ経営

- ▼ サステナビリティの取り組み サステナビリティの推進 ▼ サステナブルファイナンス
- ▼ ステークホルダーエンゲージメント

サステナビリティの取り組み

サステナビリティ経営

「持続可能な環境・社会がMUFGの持続的成長の大前提であるとの考えのもと、環境・社会課題の解決とMUFGの経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組む」ことが、MUFGのサステナビリティ経営です。

MUFG Wayと行動規範の位置づけ

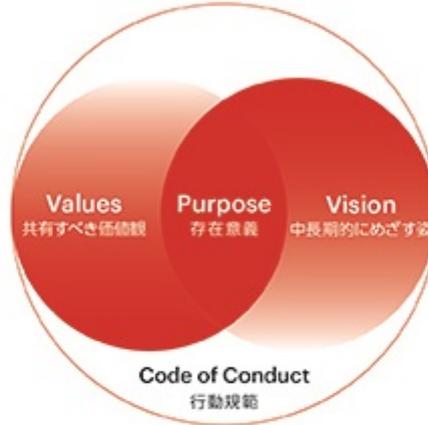
MUFG Way

MUFG Wayは、MUFGグループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全役職員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。パーパス（存在意義）である「世界が進むチカラになる。」には、「全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラになりたい」という決意が込められています。これが起点となり、中期経営計画をはじめとする全ての戦略は確かなベクトルと強い推進力を得ることで、持続可能な社会の実現に一層貢献していくことができると考えています。

MUFG Way

What's MUFG Way

MUFG Wayは、MUFGグループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全社員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。



存在意義
Purpose

世界が進むチカラになる。

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。これが未来に向けて変わらない MUFG の存在意義です。

共有すべき価値観
Values

不変の価値観である「信頼・信用」に加え、「プロフェッショナリズムとチームワーク」、「成長と挑戦」を大切にします。

中長期的にめざす姿
Vision

全てのステークホルダーが持続可能な未来、新たなステージへと進むチカラになることで、真に社会から必要とされる、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」をめざします。

地域・社会のチカラに
安心・安全なプラットフォームとイノベーションで、
強しなやかな地域・社会を築く取り組みに参画します。

お客さま・パートナーのチカラに
デジタルの活用と金融ソリューションで、お客さまの豊かな生活、
人生のチャレンジを応援します。

未来の世代のチカラに
社会課題と向き合い、人と地球が調和し
共生する社会づくりに貢献します。

世界が進むチカラになる。

全てのステークホルダーの課題を起点とした戦略立案・遂行により、その解決に取り組めます。

株主・投資家のチカラに
当社のサステナビリティと企業価値を持続的に高め、
その期待に応えます。

MUFGの仲間のチカラに
多様性が尊重され、共に輝き成長できる場と機会を
用意していきます。

行動規範

行動規範は、MUFG Wayのもとに、グループの役職員が日々いかに考え、判断し、行動すべきかを示したもので、以下3つの章で構成されています。

行動規範

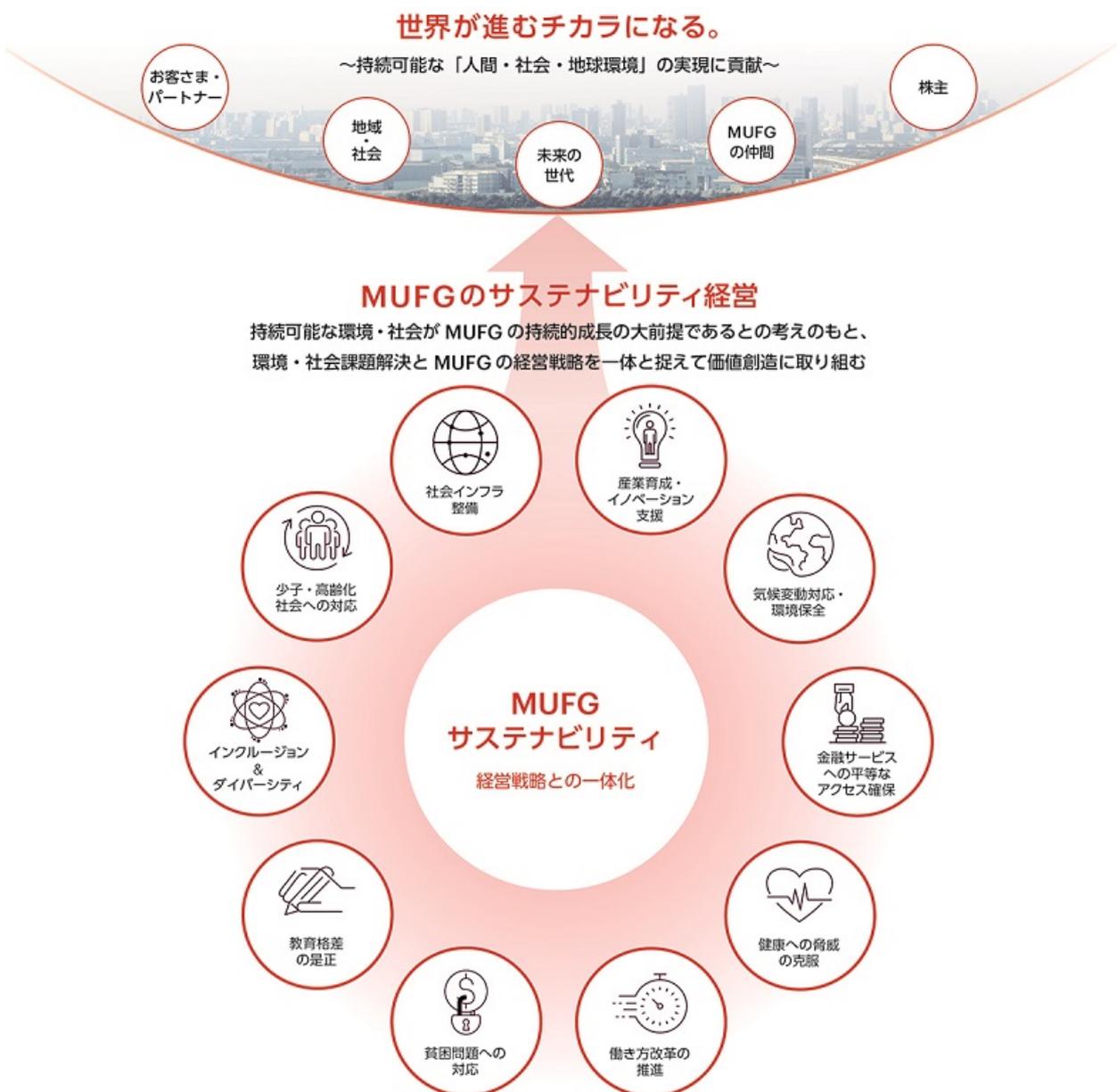
- ・ 第1章 お客さまに対する姿勢
- ・ 第2章 社会に対する責任
- ・ 第3章 職場における心構え

中期経営計画（2021～2023年度）における位置づけ

MUFGは、パーパス「世界が進むチカラになる。」の実現に向けて、社会、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題に徹底的に向き合い、その解決に取り組みます。2021年度からスタートした中期経営計画では、3年後のめざす姿として「金融とデジタルの力で未来を切り拓く No.1 ビジネスパートナー」を掲げ、「デジタル」「挑戦・スピード」に並ぶ変革テーマの一つに「サステナビリティ経営」を位置付けました。

優先的に取り組む10の環境・社会課題を起点に事業戦略、リスク管理、社会貢献活動を推進し、環境・社会課題の解決に貢献していきます。

サステナビリティ経営の全体像

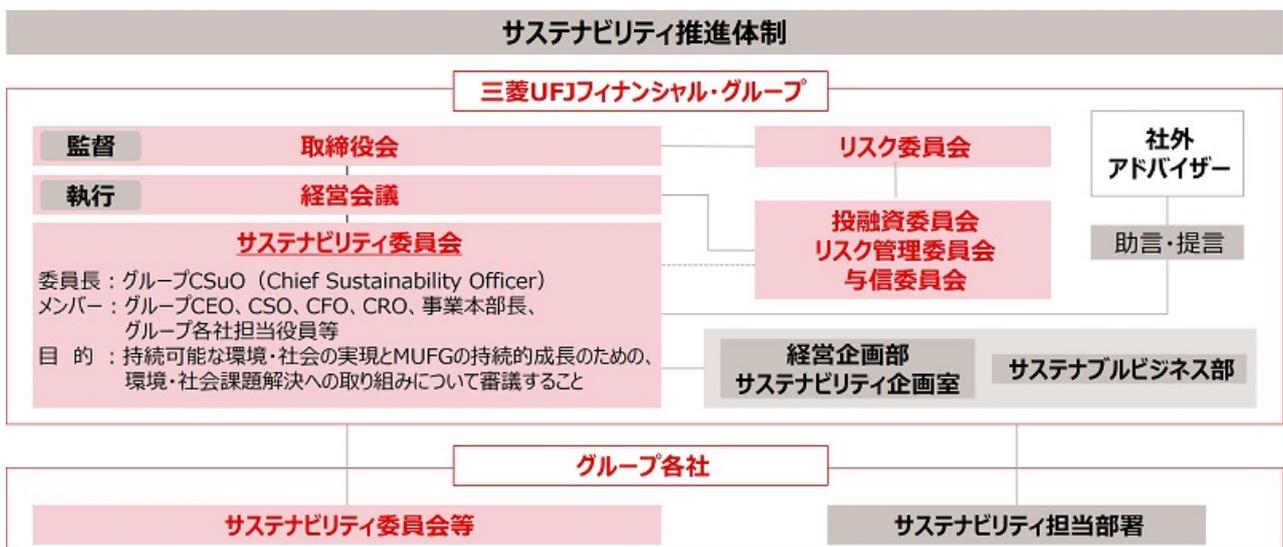


サステナビリティの推進

サステナビリティ推進体制

MUFGは、取締役会の監督のもと、「サステナビリティ委員会」を中心としたサステナビリティ推進体制を構築しています。本委員会は、サステナビリティの取り組み全般について責任を負うグループCSuO（Chief Sustainability Officer）が委員長を務めています。CSuOは、経営企画・戦略担当であるグループCSO（Chief Strategy Officer）のもと、経営戦略と一体でサステナビリティの取り組みを推進しています。

MUFGは、サステナビリティ委員会を原則年1回以上開催し、サステナビリティへの取り組み状況の確認と審議を行い、その内容を経営会議および取締役会に付議・報告し、取締役会の監督を受けています。また、サステナビリティに関する課題やリスクについて、常時専門家からの意見聴取を可能にするため、3名の社外アドバイザーを招聘しており、取締役会メンバーと意見交換を行い、専門的立場からの助言・提言をMUFGのサステナビリティへの取り組みに活かしています。



各役職・部署の役割

グループCSuO（Chief Sustainability Officer）

サステナビリティ経営の推進に向けて、その取り組み全般について責任を負う。

社外アドバイザー

外部知見をサステナビリティ経営に反映するため、マネジメントとの意見交換を定期的実施する。

経営企画部サステナビリティ企画室

環境・社会課題解決と持続的成長の両立に向け、MUFGのサステナビリティ経営の基盤整備、戦略の企画立案・推進を担う。

サステナブルビジネス部

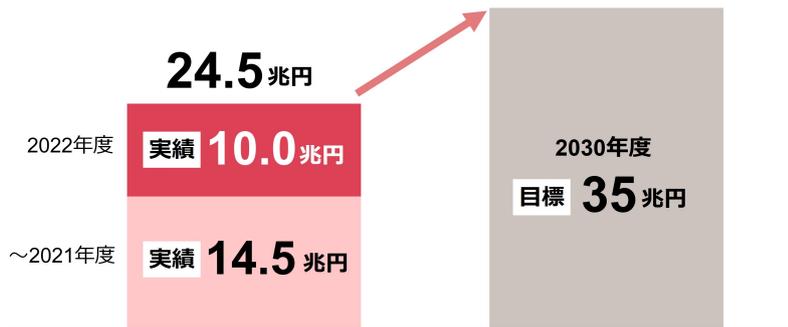
サステナブルビジネス推進の専門組織。MUFGのサステナビリティ領域における国内外の知見を集約し、環境・社会課題解決起点で各種情報やソリューション提供を通じて、お客さまの持続的成長を支援する。

サステナブルファイナンス

目標と進捗

環境・社会課題の解決に向けて、2019年度から2030年度までの累計実行額をサステナブルファイナンス目標として設定しています。2022年度までの累計実行額は24.5兆円（うち、環境分野で8.9兆円）と順調に推移しています。

2030年度までのサステナブルファイナンス目標の見直しを検討しています。



サステナブルファイナンスの目標・実績

【単位：兆円】

分類		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計	2030年度 目標
環境	再生可能エネルギー・環境関連事業向けプロジェクトファイナンスの組成等	0.5	0.6	0.6	0.7	8.9	18.0
	グリーンボンドの引受・販売	0.5	0.5	0.5	0.6		
	気候変動緩和・適応に資する事業へのコーポレート・ローン組成等	0.2	0.3	0.3	1.0		
	気候変動緩和・適応に資する事業へのファイナンシャルアドバイザー	0.8	0.3	0.3	0.1		
	その他	0.0	0.0	0.2	1.0		
社会	社会インフラ設備・地域活性化等に資する融資等	1.0	1.3	1.6	2.5	6.4	17.0
その他	さまざまな環境・社会課題の解決に貢献する分野	0.6	1.4	3.2	4.0	9.2	
合計		3.5	4.4	6.5	10.0	24.5	35.0

サステナブルファイナンス目標の定義

「サステナブルファイナンス」は、関連する外部基準（グリーンローン原則、グリーンボンド原則およびソーシャルボンド原則など）を参考に、以下の事業に対するファイナンス（融資、ファンド出資、プロジェクトファイナンスおよびシンジケートローンの組成、株式・債券の引受、ファイナンシャルアドバイザー業務を含む）を対象範囲としています。

環境分野

- 再生可能エネルギー、エネルギー効率改善およびグリーンビルディングなどの気候変動の適応・緩和に資する事業
【例：再生可能エネルギー事業向け融資・プロジェクトファイナンスの組成、グリーンボンドの引受・販売など】

社会分野

- スタートアップ企業の育成、雇用の創出、および貧困の改善に資する事業
- 地域活性化、地方創生に資する事業
- 公共交通／水道設備／空港などの基本的なインフラ設備、および病院／学校／警察などの必要不可欠なサービス事業
【例：新産業成長サポートプログラム、地方創生プロジェクトへの融資（MUFG地方創生ファンドなど）、公共インフラ向け融資・プロジェクトファイナンスの組成、ソーシャルボンドの引受・販売など】

日本銀行における気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）への対応

三菱UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行は、日本銀行における気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（以下 気候変動対応オペ）の対象先として選定されています。なお、三菱UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行各行における、気候変動対応オペにかかる対象投融資については下記の通りです。

三菱UFJ銀行

[気候変動対応オペにかかる対象投融資に関する基準および適合性の判断のための具体的な手続きの開示](#)（PDF / 95 KB）

[各年度末における気候変動対応投融資の残高](#)（PDF / 179KB）

三菱UFJ信託銀行

[気候変動対応オペにかかる対象投融資に関する基準および適合性の判断のための具体的な手続きの開示](#)（PDF / 137KB）

[各年度末における気候変動対応投融資の残高](#)（PDF / 179KB）

グリーン/ソーシャル/サステナビリティボンドの発行

MUFGは、グリーン/ソーシャル/サステナビリティ全てのボンド発行実績がある国内唯一の発行体であり、その規模は国内金融機関として最大です。ボンドの発行代わり金は、サステナビリティ関連のファイナンスに充当されます。

グリーン/ソーシャル/サステナビリティボンド

ステークホルダーエンゲージメント

変化の速い時代、多くのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。これが未来に向けて変わらないMUF Gの存在意義です。

MUFGは、新たな気づきを得るとともに、相互理解を深めるため、ステークホルダーの皆さまとの建設的な対話を積極的に進めていきます。ステークホルダーの皆さまの関心事項や抱えている課題等を踏まえた、適切な対応を行うことで信頼関係・協働関係を築き、MUFGの持続的成長と中長期的な企業価値の向上に繋げていくように努めます。

主なステークホルダー	企業価値向上に向けた取り組み方針
お客さま・パートナー	<p>環境変化を捉え、当社の強みを活かした事業活動により、お客さまの課題解決を金融面・非金融面の双方からサポートする</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業本部の取り組み 外部パートナーと連携の上、お客さまの脱炭素化に向けたエンゲージメント 国内外1,500社 お客さまから寄せられたご意見 約18万件^(注)、うちサービス改善事例214件 <p>(注) 銀行、信託、MUMSS、ニコス、アコム</p>
地域・社会	<p>安定的な資金供給や堅牢な事務・システムの提供により、金融面から社会を支えるとともに、社会のデジタルシフトに貢献する</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO/NGOとの対話 27件 少子高齢化社会への対応 社会課題解決をめざす企業・イノベーションの支援 サイバーセキュリティに対する取り組み
未来の世代	<p>環境・社会課題への対応をチャンスに変え、新しい時代において社会をリードする存在をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル実現への取り組み 気候変動イニシアティブへの参画と意見発信 TCFD提言に基づく開示 サステナブルビジネスの推進 各種イニシアティブへの参画

主なステークホルダー	企業価値向上に向けた取り組み方針
MUFGの間	<p>対話を通じて会社の変革に共感する社員を増やし、挑戦とスピードのカルチャーを醸成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的資本運営 ・社内公募制度「Job Challenge」の応募者数2,630名、合格率44% ・MUFG Way 共鳴セッション、MUFG Way Boostプロジェクト ・新規ビジネス創出プログラム Spark X ・経営陣による国内外でのタウンホールミーティング開催
株主・投資家	<p>透明性の高い開示と建設的な対話を実施し、そこで得た情報を経営へ還元し、経営戦略へ反映する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主総会 来場者 758人、視聴者1,516人（2023年6月開催） ・機関投資家・アナリスト向け説明会 7回 ・社外取締役と機関投資家の対話 ・機関投資家との個別面談 359件（海外投資家215件） ・個人投資家向けセミナー 4回、視聴者 約3,200人

ステークホルダーとの対話

「MUFG PARK」開園

MUFGおよび銀行は、東京都西東京市に保有する施設（運動場）を一般の方も使える施設「MUFG PARK」としてリニューアルし、2023年6月に開園しました。MUFG PARKはテニスコート、グラウンド、コミュニティライブラリーを備えています。地域の皆さまとともに今後さまざまなイベントを開催していく予定です。

MUFG PARKは「自分らしいQuality of Lifeを追求できる拠点」をコンセプトに、貴重な自然価値の保全・継承、コミュニティの形成支援、レジリエントな社会（しなやかな強さを備えた社会）の創造など、次の世代に向けて私たちが向き合うべき地域・社会の多様な課題解決に地域との対話と社員の参画により取り組むとともに、そこで培われるさまざまな経験（ノウハウ）や価値を、社会に向けて発信することで「地域・社会が進むチカラ」になりたいと考えています。

MUFG PARK



社員との対話を活性化。インドネシアでは3業態合同タウンホールを実施

社員のエンゲージメントを高めるため、国内外で役員によるタウンホールミーティングを積極的に開催してきました。最近では、各部室店が自発的に座談会等を実施する動きも広がっています。

2022年9月には亀澤社長がインドネシアへ出張し、タウンホールを実施しました。銀行ジャカルタ支店、ダナモン銀行とその子会社アディラファイナンス、3業態の社員約200人が会場に集まりました。

インドネシアはその高い経済成長率から、ダナモン銀行の買収をはじめ、過去10年間におけるMUFG最大の投資先となっています。亀澤社長は、「世界が進むチカラになる。」を現地語で語ると共に、各業態の従業員がOne Teamとなり「インドネシアが進むチカラになる。」ことを期待していると力強いメッセージを伝えました。

参加した社員からは、DEIやデジタル戦略等、さまざまな質問が寄せられ、エンゲージメント向上につながる会となりました。タウンホール後は近隣の拠点や現地当局を訪問し、一連の活動は現地メディアでも多く取り上げられ、インドネシアへのコミットメントを示す形となりました。



気候変動セミナーを開催

MUFGは、サステナビリティを現中期経営計画の最重要テーマの一つと位置づけており、2021年のMUFGカーボンニュートラル宣言以降、気候変動への対応は大きく進展しています。

2023年5月、カーボンニュートラル宣言以降の進捗や、今後の主な取り組み等を説明したプレゼンテーション動画をホームページ上で配信し、後日、機関投資家・証券会社アナリスト向けのQ&Aセッションを動画ライブ配信形式で行いました。

Q&Aセッションでは、これまでの取り組みに対する自己評価や、第18回定時株主総会の議案となった気候変動に関する株主提案への考え方、サステナブルファイナンス目標等について質問がありました。

参加したアナリストや投資家からは、MUFGの取り組み・姿勢に対する高評価に加え、CSO・CSuOと直接対話する場としての本イベントの重要性や、株主提案の内容に具体的に回答・見解を述べるプレゼンテーションの構成を評価する感想が寄せられました。

